JOGAKUIN'S VOICE

院長×教頭×生徒

特別座談会

広島女学院で学ぶということ

人として、一人の女性として
心も体も大きく成長する中高生時代。
未来の土台を築く大切な6年間の中で
「女子」「中高一貫」「キリスト教」
という三つの柱が果たす役割とは。

広島女学院中学高等学校
HIROSHIMA JOGAKUIN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

※2020年座談会開催時の役職・学年です。

広島女学院高等学校 教頭 高見 知伸 × 広島女学院 院長※ 広島女学院大学 学長※ 湊 晶子 × 高校生代表（高1）※ 鬼頭 伶実 × 中学生代表（中3）※ 石野 奈都子

なぜ女子教育なのか

―思春期に女子教育を受ける意義はどこにあると考えていますか

湊　女子だけですと、たとえば力仕事など男子がいるとつい頼りがちな作業なども全て自分たちでこなさなければならず、自立心が養われます。中学から高校までは心も体も大きく変わります。その大切な期間に女子教育を受け自立心を養うことは、人生における大きな土台づくりにおいてとても有意義だと思っています。

―日常の指導において女子教育の重要性を実感することはありますか

高見　私は本校の卒業生でもあるのですが、入学以来、あらゆる選択の場面において自分で決断してきました。13歳の時からそれが自分にとっては普通のことでしたので、あらためて女子教育の重要性を意識しながら指導するということはあまりありません。「女子だから」とことさらに強調するのではなく、日々の生活のなかで無意識のうちに感じていくようになるものなのだと思います。

―昨今共学化の傾向が見られますが女子校として思うことはありますか

湊　中高も大学も確かに共学化の傾向が強まっていますが、私は最後の一校になっても、女子校でありたいと考えて

心にぶれない軸を立て 自立した女性に

広島女学院 院長※
広島女学院大学 学長※
湊 晶子

宮城県生まれ。東京女子大学卒業後、フルブライト奨学生としてホイートン大学大学院へ。東京基督教大学、東京女子大学教授を経て2002年に東京女子大学長に。2014年より本学院長・学長。2010年「瑞宝中綬章」受章。

います。私自身も女子校出身ですが、生徒会も大学祭も、全て女子が仕切るわけで、自らが決定権を持ち、自らこなすという経験は、社会でも、母親になっても、役に立ちます。「自立心を育てる」と言葉ではよく言われますが、自立心は自ら行動しなければ身に付きませんから。

高見　受験生本人はまだ児童ですから、自分から女子校に行きたいと希望することは少ないかもしれませんが、女子教育を受けさせたいから志望したという保護者の声はよく聞きますね。

―広島女学院を選んだ理由と入学して良かったことは何ですか

鬼頭　わが家は姉も中学受験をしたので、私も当然という流れでした。正直、広島女学院についてはあまり知らなかったのですが、今では広島女学院に入学して良かった！と心から思っています。まだ4年間ですが、自分でも驚くくらい変わることができて、それが本当にうれしくて。十分すぎるくらい充実しています。

石野　私は男子と接するのが苦手だったので、女子だけなら自分を出せるのではと思って広島女学院を選びました。小学生の頃はおとなしかったのですが、当時の友人にも別人みたいと言われるくらい、コミュニケーションが苦手ではなくなりました。

鬼頭　私も同じです。自分を変えるチャンスが女学院にはたくさんあって、それを生かして積極的に行動することによって成長できました。いろいろなことを学ぶうちに価値観が変わり視野が広がって、海外ボランティア活動や留学を経験したいという夢が見つかりました。広い視野を持つ友人に囲まれているので、その影響も大きいと思います。

石野　私も自ら挑戦してみたいと思えるようになりました。以前は留学に興味はありませんでしたが、友人たちから刺激を受けて、自分も経験したいと思うようになりました。

なぜ中高一貫教育なのか

―中高一貫教育の良さは何ですか

湊　女子が肉体的にも精神的にも最も大きく変わるのが、中学と高校の6年間。高校を卒業すれば大人として扱われます。その成長期を3年で区切ると一貫性がなくなってしまいます。6年間を分断する理由がありませんよね。中学校の入学式で祝辞を述べる時はまだあどけなく可愛らしい子たちが、6年後、高校の卒業式では堂々と立派な女性に。そのかけがえのない日々を一貫した教育理念と環境の下で過ごせることは非常に幸せなことではないでしょうか。

高見　6年間で、子ども同士の関係性から大人の関係性に変化していきますが、生徒自身も高校の後半あたりになると、そういったことに気づきます。人間的に未熟な頃は些細なことでケンカもします。それが3年で途切れてしまえば相手を気に入らないまま。でもその先があれば、相手の別の面も見えてきて見直すといった発見があります。

湊　広島女学院に赴任する時、中学から入学する中高一貫校と聞いて安心しました。6年間、友人としっかり絆を強めながら進級できる女子校であることは誇りです。

―今後、学んでみたいこと挑戦してみたいことはありますか

石野　中学で学んだ以上に、高校で新しいことを学びたいと思っています。あとは6年間を共に過ごした友人と、大学に進学してもずっと仲良しでいたいですね。6年間一貫教育で本当に良かったと感じています。

鬼頭　6年間のうち、もう半分が過ぎたんだなと思うと、月日の流れがとても速く感じます。中学の3年間でも自分の変化を実感しましたが、高校ではさらに生徒が主体になって活動する場が増えました。この1年間だけでも、世界のさまざまな問題について自分なりに考えてきたので、今度は考えたことを実行に移せるように頑張りたいと思っています。

―中高一貫校の特徴は何ですか

高見　いろんな機会が準備されていることでしょうか。この機会は生徒が自らつくり出すこともあります。単なる行事ではなく、opportunity（機会）やchance（偶然）ではなく「考える機会」。1日の始まりである礼拝もその一環です。その1つ1つが、何十年経っても自分の中に残っているんですよね。私も自分が生徒だった時にキリスト教強調週間で聞いた話を覚えています。自分になかった価値観に衝撃を受け、新たな価値観が生まれたから、記憶に残っているのでしょうね。その時に生まれたものが今も自分のベースとなっています。

広島女学院高等学校 教頭
高見 知伸

広島県生まれ。広島女学院中高大にて10年間学ぶ。1995年より本校英語科教諭。2018年より高校教頭。

なぜキリスト教教育なのか

―キリスト教教育とはどのような教育を言うのでしょうか

湊　グローバル社会といわれますが、実はキリスト教の概念を知らなければグローバルにはなれないのです。なぜかというと西暦というのはキリストの誕生から数えているからです。日本でも使われる西暦はキリスト教の概念であり、西欧社会ではこの概念の上に歴史も文化

も築かれています。広島女学院では決してクリスチャンになりなさいという教育はしません。キリスト教の考え方を理解してほしい、知ってほしいのです。その考えを基に育みたいのが、ぶれない自分。人間という生き物は人の間で物事を考えますが、そうすると必ずぶれてしまい、決められなくなります。集団的意識構造が強まると、みんなと一緒なら怖くないと、みんな同じ方向を向いてしまいます。このように「if you say so, I think …」では国際社会で負けてしまいます。「I think…」で議論しなければならないのですが、それは自信を持つこと、ぶれない軸を立てることからです。キリスト教教育とは、その軸を聖書から学ぶこと。自分の中にぶれない軸を立てた時、人は誰に何と言われても「それは違う。私はこう思います」と言えるのです。つまり「人格」を築くことです。人格という言葉はキリスト教教育から生まれた言葉で、かつて日本語にはありませんでした。英語ではcharacterとかpersonalityと訳されます。人格とは「person herself」ということです。ですから人格教育を中高教育の原点として重視しているのです。

▲ 毎朝の礼拝
聖書の言葉を通して、自分自身と向き合い心の成長や生き方を考える大切な時間。

鬼頭　私は入学するまでキリスト教に触れる機会はなくて、礼拝も初めての経験でした。最初は何を聞いているのかよく分かりませんでしたが、最近は自分の中に響くのを感じ、得られるものがたくさんあります。

石野　最初は宗教的なイメージに少し抵抗がありましたが、毎日の礼拝で人生の生き方を教えてくれているのだと思えるようになりました。

湊　聖書の教えに則って生きるということは、積極的に生きるということ。ポジティブな人間をつくります。たとえば福音書の中には「何でも人の喜ぶことをしなさい」と書いてあります。儒教では「人の迷惑になることをしてはならない」と否定形で教えます。キリスト教の文化がベースとなっている西欧では、子どもを叱る時も「～してはいけません」ではなく「～しなさい」と非常にポジティブです。「喜ぶことをしなさい」と教えるのです。この学校の雰囲気がなぜこんなに明るいのか。その理由は教員がポジティブシンキングで、子どもたちをポジティブに育てるからだと思います。

なぜ広島女学院なのか

―広島女学院の魅力は何でしょう

石野　ここで学ぶことで、自立した女性にもなれるし、グローバルで活躍できる女性にもなれると思います。

鬼頭　至るところにチャンスがあって、生徒がやりたいといえば全力でサポートしてくれます。どんなことにもチャレンジできる学校です。

高見　キリスト教の教えに基づいて、人との関わり、倫理観、生きる哲学、命とは、愛とは、そういったことを生徒と教員が全力で一緒に考える学校です。当たり前のことですが、その当たり前をきちんと実践できる教育は、私が生徒だった頃と変わっていません。そしてこれからも変えてはいけないと思っています。時代に合わせて良い方向に変化する面もありながら、変えてはいけない面は130年以上守り続けている学校です。卒業生が頻繁に遊びに来てくれるのですが「変わらないね」と言ってもらえるとうれしいですね。

湊　広島県では貴重なキリスト教主義の学校です。私はここに赴任して、この学校を決してなくしてはならないという大きな責任を感じています。大切な広島女学院の中高大を永遠に残したい。広島女学院が広島県にあることがどれだけ重要なのかを多くの人々に伝えていきたいと思っています。

保護者の皆さまへ

―メッセージをお願いします

湊　女性の一生を決める土台づくりの期間は非常に大事です。心も体も大きく成長する中高の期間。この6年間をどこでどのように過ごすかが、女性の人生において非常に重要です。ぶれない女性をつくる、次世代を育てる母としての土台をつくる。その教育にふさわしい場が広島女学院中学高等学校であると、私は信じています。